

## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム令和元年度第3回幹事会議事要旨

1 日時：令和元年9月30日(月)10時00分～11時20分

2 場所：防災科学技術研究所 東京会議室

3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤

陪席者：中島（防災科学技術研究所）、前山（〃）、平岡（セコム）、石濱（筑波大学）、  
根本（〃）、松原（〃）、木村（兵庫県立大学）（敬称略）

### 4 議事

#### (1) 筑波会議 2019 サブセッションについて

遠藤委員より、資料1に基づき、概要、関係者名簿、スケジュールについて説明があり、承認された。

#### (2) Joint Seminar 減災との共同シンポジウムについて

遠藤委員より、資料2に基づき、次第、コンソーシアム関係者用の次第、事前登録状況・参画機関出展状況、会場レイアウト、ご意見・ご感想ペーパーについて説明があり、承認された。なお、次のやりとりがあった。

✓（木村）シンポジウム時にテーブル起こし業者を在室させてもよいか。費用は Joint Seminar 減災が負担する。

→（遠藤委員）よろしくお願ひしたい。

✓（甘利副会長）パネルディスカッションは発散させるべきか、収束させるべきか。

→（林会長）2020年度から始まるリスク・レジリエンス工学学位プログラムにおける教育の方向性につながるように終わらせられればよいのではないか。

✓（平岡）シンポジウム時に配置するパンフレットの種類が増える見込み。スペースを増やせないか。

→（松原）増やす方向で対応する。

✓（木村）シンポジウム当日18:30-20:30に懇親会（会費6,000円）を用意している。コンソーシアム内での声かけを依頼したい。

→（遠藤委員）講演者・話題提供者と筑波大学教員に声をかけ、木村先生に報告する。

#### (3) 協働大学院に関する協定について

遠藤委員より、資料3に基づき、リスク・レジリエンス工学学位プログラム設置認可に伴い締結する協働大学院に関する協定について、対象参画機関と具体的な検討に入る旨説明があり、承認された。なお、次のやりとりがあった。

✓（林会長）筑波大学と各機関がそれぞれ締結するのか。機関により内容が異なってもよいのか。

→（遠藤委員）それぞれ締結する。内容は異なってもよい。

✓（中島）連携大学院に関する協定を準用してもよいのか。

→（石濱）準用してもよい。

✓（林会長）締結に伴い、プレスリリースや締結式は考えているか。

→ (遠藤委員) コンソーシアム全体として行うことは、締結の対象ではない参画機関もあることから、考えていない。各機関と行うことは、要望があれば個別に検討させていただく。

(石濱) 関連して、客員教員候補の提案を随時受け付ける旨参画機関に連絡する。

#### (4) 卓越大学院プログラムについて

遠藤委員より、資料4に基づき、卓越大学院プログラムの概要、筑波大学内での検討状況について説明があり、資料内で林会長・甘利副会長の名前を記載することを含め承認された。なお、次のやりとりがあった。

✓ (甘利副会長) 5年一貫制プログラムだが、修士を取得してやめることは可能か。

→ (遠藤委員) 可能だが、奨励金がもらえなくなるなど、本プログラムのメリットを十分に受けられなくなる。

✓ (林会長) 早期修了は可能か。

→ (遠藤委員) 4年間でも3年間でも可能。

(石濱) 修士取得済で3年次編入した場合は最短1年間で修了可能。

✓ (林会長) カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)には資格審査を経て博士論文執筆が認められた Ph.D. candidate というステータスがあり、これになると学費が安くなるなどの特別な待遇があるが、本プログラムにはあるのか。

→ (遠藤委員) 日本の大学にはそのようなシステムはなく、本プログラムに導入するのは難しい。

→ (石濱) 本プログラムでは5年間の授業料が免除である。

✓ (甘利副会長) 博士を取得してもワーキングプアになってしまうのが日本の問題点。そこにメスを入れるという姿勢を前面に押し出すのとよいのではないか。

→ (遠藤委員) 検討する。本プログラムのメリットの1つはキャリアパスの保証である。

→ (石濱) 大学が博士人材を受け入れる機関とともに教育・研究を行うということも、本プログラムのメリットである。

#### (5) その他

✓ 遠藤委員より、10月25日(金)共同シンポジウムにて、コンソーシアム参画機関所属者向けのリスク・レジリエンス工学学位プログラムリーフレットを配付し、その後各参画機関にも郵送することについて説明があった。

✓ 遠藤委員よりコンソーシアムに対し、リスク工学専攻が開催するリスク工学研究会への協力依頼があり、承認された。本研究会では、コンソーシアム参画機関に所属する博士取得者を講師として、博士前期課程学生を対象に、博士の価値とは何かに関する講演が行われる予定で、日時や講師については今後リスク工学専攻で検討されることとなった。

以上